

無口なS君のこと

「お願いします。」「ありがとうございました。」授業の始めと終わりに、きちんとお辞儀をして挨拶するS君。それ以外は一言もしゃべらず、ただじっと下を向き、教科書や塾のテキストとノートを見つめ、時折黒板に目をやり、今にも消えそうな薄い字で書き留める。このところ学校の授業も週何日か、しかも午前中1,2時間だけで早退すると言う。

当スクールでは別の場所に「オープンゼミ」（当時）があって、不登校や学校の授業を休みがちな児童、生徒を個別に指導するので勧めてみたが、部活の友達が通う普通のクラスに行きたいとのことで、今は通常の中3クラスに参加している。

理科は好きな教科だけに理解は速いし、取り組みも積極的だ。9月の学力調査のため、期末試験後から始まった1、2年の復習授業では、黒板の板書きが多く、それを書き留めるのにちょっと苦労していた。一番前の席に置いて彼の状況を確認しながら授業を進めたが、私もジレンマに陥る。一斉授業の欠点を補うために授業の半分は個別指導に向けているが、1教科僅かに週1時間の割合で5教科指導する私達、学習塾ではその単元のエッセンスを授業し、個々の生徒の理解確認のために個別指導する。授業中は生徒の目の動きが理解度を表してくれるが、殆ど下を向いてる彼の場合、それが把握できない。

彼を預かって2ヶ月、彼からの要望で何回かオープンゼミでも指導するようになった。彼もだんだん自分のことを話すようになってきた。一人っ子で、釣りが好きで、自分でも無口だと言った。しかし、まだまだ。もっと彼とコミュニケーションが取れ、彼が自分の気持ちを吐露できるようになったらと思いながら指導していた。

そんな折授業の後、彼が私の所に来た。学校に行けなくなったと言う。周りの視線が気になり、クラスに入れない。もう中3なんで何とかしたいと言う。聴くに、学校を休みがちの自分をみんながヘンに思っていないかと気になってしまうと言う。友達にそう思っているか聞いてみた？と言うと、いや、絶対そう思っていると即座に答えた。不登校になっている子の殆どが口にする言葉だ。その場で心理テストを採ると、低い父性（CP）と感性（FC）、高い知性（A）に異常に高い順応性（AC）が表れていた。彼に、その心理テストからどうしてそのように思い込んでいるのか、詳しく説明してあげた。そして、人は自分が思ったこと（かつて不登校の子に対して思っていた感情）はみんな思うと考える。しかし、人の価値観はみんな違うから、同じことを思うとは限らない。例えば、真っ青な空に鳥が群れを成して飛んでいるのを見て、群れて楽しそうに飛んでいると思う子もあれば、空の青さと鳥の白さに悲しそうに感じる子もいる。そんな話をしてあげた。

勿論、それだけで学校に行けるようになるはずはない。本人とご両親の申し出で、週3回のペースで彼のカウンセリングを始め、夏の交流合宿にも参加してもらった。結果、2学期からは早退することもなく、普通に学校に通い、公立高校進学を果たした。